

## シンポジウム

# 「被爆者医療体験の継承と国際貢献」

～世界の被曝者医療における広島への貢献と新たな展開～



### 【座長】津谷 隆史

広島県医師会常任理事  
広島大学大学院修了(博士)1988年

広島大学附属病院勤務後、1989年から1992年まで同大学で文部教官、1993年から2000年まで中国労災病院呼吸器科部長、カロリンスカ研究所研究員(1996)、津谷内科呼吸器クリニック理事長(2000-)、広島県医師会常任理事(2014-)



### 【シンポジスト】児玉 和紀

放射線影響研究所主席研究員  
広島大学医学部卒業(博士)1983年

1972年に広島大学医学部を卒業し、その後エール大学セントラファエル病院にて5年間の臨床研修を受けた。1989年から1999年まで放射線影響研究所(放影研)臨床研究部長を、2002年から2007年までは疫学部長を務め、現在は主席研究員を務めている。1999年から2002年までは広島大学医学部保健学科教授も務めた。日本疫学会の元理事長であり、英国王立内科医学会公衆衛生部フェローおよび米国心臓病学会フェローでもある。日本心臓財団予防賞を1992年と2012年に、日本循環器病予防学会功労賞を2006年に、日本疫学会功労賞を2011年にそれぞれ受賞した。



### 【シンポジスト】クリストファー・クレメント

国際放射線防護委員会科学秘書官  
マクマスター大学(カナダ)保健物理学(修士)

低レベル放射性廃棄物と環境修復の分野でカナダ政府に10年以上貢献。その後カナダ原子力安全委員会、ウラン鉱脈廃止措置および放射線テロ対策に放射線防護の部門長として約10年間従事。その間、国際原子力機関の放射線安全基準委員会、経済協力開発機構原子力機関の放射線防護及び公衆衛生委員会でカナダ代表を務める。2008年より国際放射線防護委員会の科学秘書官となる。2012年より国際放射線防護学会理事。



### 【シンポジスト】神谷 研二

広島大学副学長  
広島大学医学部卒業(博士)1986年

1982年から1987年米国ウィスコンシン大学研究員等、1987年より広島大学原爆放射能医学研究所に着任、1996年同教授。2001年から2005年及び2009年から2013年、同研究所長併任。2004年より広島大学緊急被ばく医療推進センター長、2011年より福島県立医科大学副学長、2013年より広島大学副学長(復興支援・被ばく医療担当)を兼務。この間、日本放射線影響学会会長(2008-2011)、現在、評議員、日本学術会議会員(2014-)、放射線審議会会長(2014-)、また2009年にアジア放射線研究連合賞、同年防災功労者防災担当大臣表彰、2012年に防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞。2015年に第15回国際放射線研究会議(ICRR2015)事務総長。専門分野は、放射線生物学、放射線障害医学、放射線発がん、緊急被ばく医療の研究。



### 【シンポジスト】権丈 雅浩

広島がん高精度放射線治療センター 副センター長  
広島大学医学部卒業(博士)1993年

広島大学医学部助教(1998-)、広島がん高精度放射線治療センター副センター長(2015-)、放射線腫瘍医